農村ニュース　平成27年3月30日（月曜日）

多様な人材、家族主義を貫く

フジイが審査委員会特別賞受賞

「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞

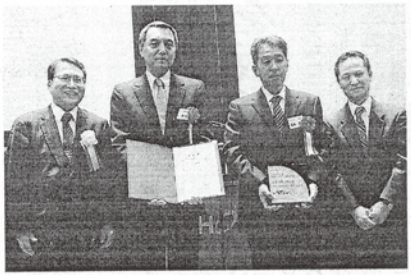
今回13団体が選出、表彰された

藤井社長

「人を大切にする経営学会」は3月20日、法政大学市ヶ谷キャンパスで、「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞の受賞表彰式を開催。フジイコーポレーション（藤井大介社長）が、審査委員会特別賞を受賞した。

第5回目となる今回は、昨年10月～12月にかけて募集を行い、団体、個人合わせて47件の応募の中から、厳正な審査の結果、13団体が選出された。

「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞は業績や経営手腕ではなく、社会的責任を果たす、という企業姿勢を客観的に評価し、表彰することで、他の企業の範となり、「大切にしたい会社」が増えることを期待して平成22年度に創設された。主催は、「人を大切にする経営学会」で、経産省、厚労省、中小企業庁を始めとする政府機関や日本商工会議所、中小企業家同友会など多数の経済団体が後援している。



第5回目を迎える今回は、厚生労働省の後援のもと、新たに厚生労働大臣賞を創設。障がい者、高齢者、女性などの活躍推進や長時間労働の削減などの総合的な雇用管理に関して優れた企業行動を実践し「人を幸せにする経営」の実現に尽力した団体についても表彰が行われた。

表彰式では、清成忠男事業構想大学院大学学長の主催者挨拶、田中優子法政大学総長の開催校挨拶、坂本光司審査委員長による審査講評に続いて、経済産業大臣賞、厚生労働大臣賞、中小企業庁長官賞、実行委員長賞、審査委員会特別賞の表彰が行われた。

フジイコーポレーションからは、藤井社長と総務部の清水和夫さん、機械事業製造部の坂本正宏さんが出席した。

清水さんは、65歳。一度定年を迎えたが、長年の同社での経験が認められ、総務部でシニアアドバイザーとして再雇用され、人事関係で活躍している。「会社では、柔軟な勤務時間を組んで頂き、高齢でも働ける環境が整備されていて働きやすい」と語る。

坂本さんは、先代社長の時代におじいさんが同社で働いていた。「祖父は、もともと腕の良い大工で昔の工場や社屋の建設は、祖父が関わったものが多かったそうです。今の藤井大介社長は、小さい頃、よく祖父のところに遊びに来て、遊んでもあげたと聞いています」と語る坂本さん。長年の間、地元で家族経営を貫く同社らしいエピソードである。

【フジイコーポレーションの取り組み】創業は、1865年。当初は、農機具の製造。現在は、除雪機や草刈機の製造販売。2013年には、「ジャパン・ツバメ・インダストリアル・デザイン・コンテスト」で「経済産業大臣賞」、昨年は「ダイバーシティ経営企業100選」に選ばれるなど、受賞暦多数、今回の受賞理由は、以下の3点。①家族主義経営を徹底し、金融機関によるリストラ提案があった際も、一人も解雇することなく、会社一丸で難局を乗り切り、事業を回復させた②社員が長時間働く工場内の環境整備を進め、工場の床には、膝を痛めない塗料を塗り、また工場内での転倒を避けるため、工場の床に物を置かないフラット化を徹底し、働きやすい環境づくりを行っている③女性・高齢者・障がい者・外国人など多様な人材を雇用し、活躍の場を提供している。

【藤井社長の話】この度、はからずも審査委員会特別賞を受賞することができましたが、これは、日頃の社員の努力の賜物で、私としても喜びにたえません。特に何世代にもわたって当社に籍を置いてくれる社員が数多くいることは、うれしい限りです。これからも社員が「気持ちよく働ける環境づくり提案」に耳を傾け、一層の努力を重ねていく所存です。